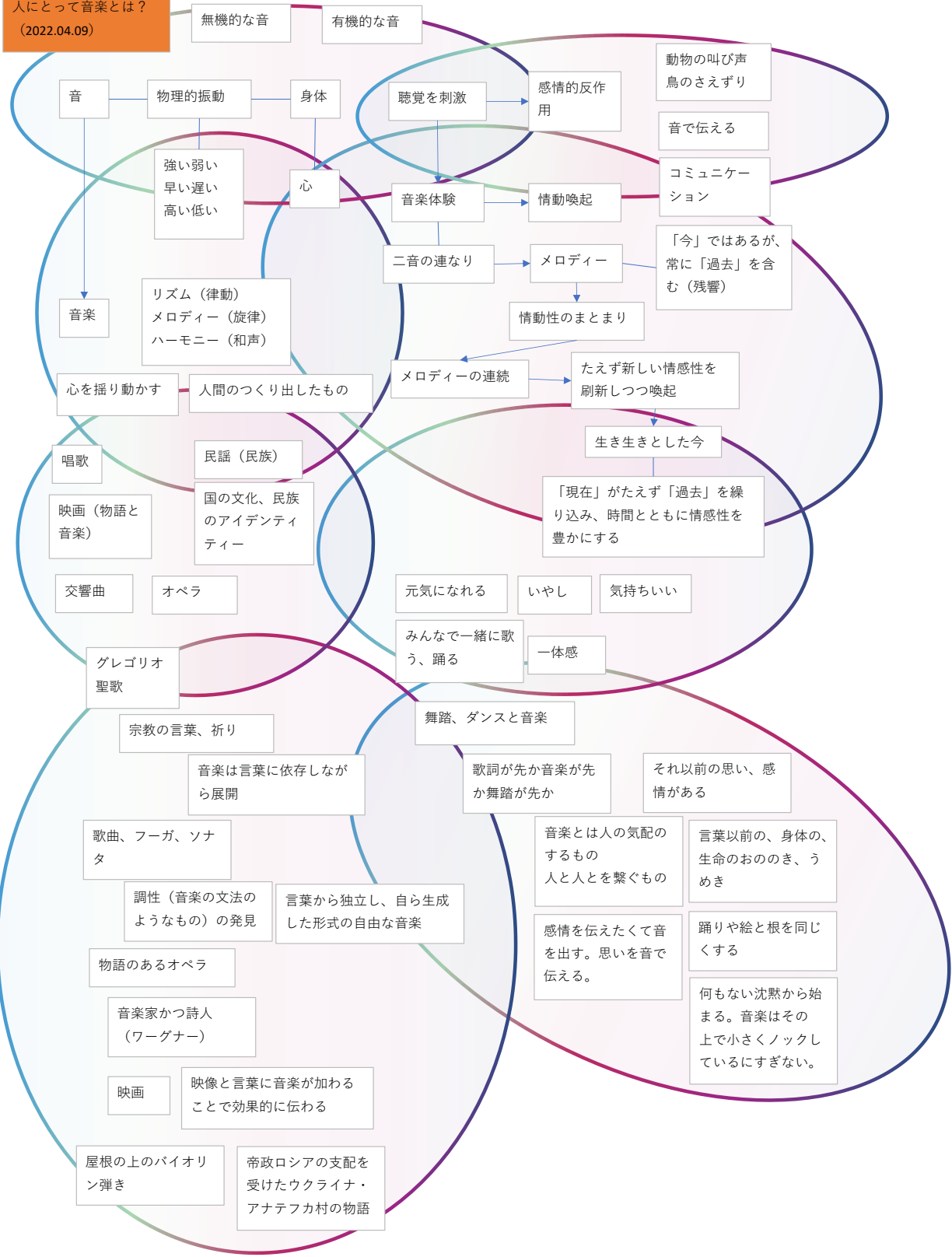


人にとって音楽とは？
(2022.04.09)



日本の音楽は？

謡曲（能）、歌舞伎、小唄長唄、都都逸、歌謡曲、箏曲、びわ

民謡、子守歌、安木節、八木節、小諸馬子唄など

短歌、俳句、連句

俳句、和歌の韻律
五七五の韻をふむ

リズムと音色、調べ

日本語の母胎は大和ことば

日本語の深部から発せられる鼓動

生きものの胸の奥で心臓が刻むリズム

二音の単語（はな、つき、ゆき・・・）と三音（いのち、こころ、ちから・・・）が基本。
最も単純な組み合わせが五音

安木節、八木節などの民謡、小諸馬子唄も

にぎやかな中に暗い絶望的な悲しみを含んでいる。

日本の土の底からきこえてくる祖先の声

歌仙、連句と音楽の類似性

全ての詩歌は音楽的要素を持っている

リズム、メロディー、ハーモニー

同一リズムの連句の相次ぐ二句の接触によってメロディーが生まれ、その余響、残像の接続によって協和、不協和のハーモニーが生ずる。

壮大な交響曲をなししている。

芭蕉の『炭俵』『猿蓑』から着想したモンタージュ技法

映画表現の新しい技法として定着

「取り合わせ」の技法

芭蕉をはじめ日本の連句の方が洗練されている

北信地方
高野辰之、中山晋平
小林一茶などの作曲家、作詞家、詩人を輩出している。

「日本のふるさと」たる北信地方

日本の伝統的なやり方を生かし新しい交響曲をつくったらどうか（寺田寅彦）

今こそ音楽が大事

日本から発する音

もっと自由に関連に
いるんなことをする

同時多発に響かせる
ようなことをする

唱歌「ふるさと」を
歌う

足を引っ張るという
性癖をもつ地域性